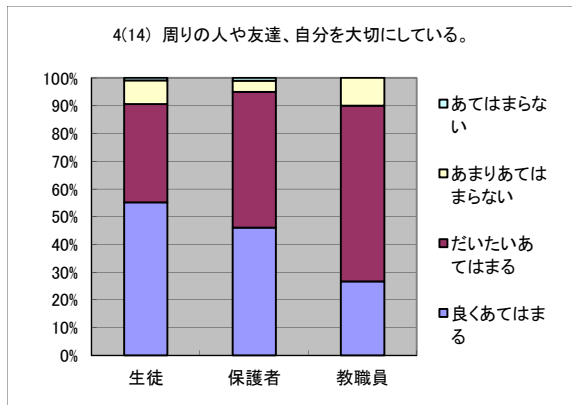


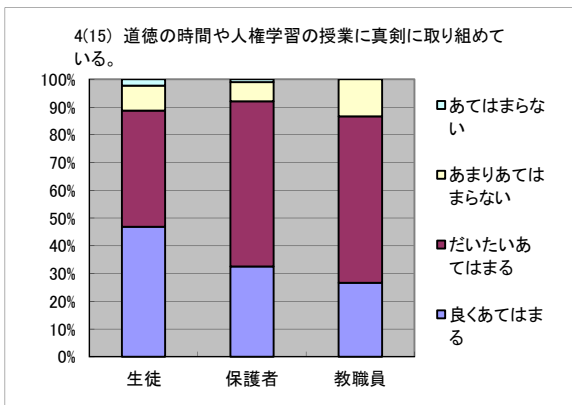
保護者・教職員の9割以上が「あてはまる」と答えており、昨年よりその割合が増えている。あわせて、生徒の「あてはまらない」と答えた割合は、昨年より減っている。しかし、「あてはまらない」と回答した生徒12名、保護者3名がいたことに注視し、今後も教育相談に取り組む必要がある。

生徒と教職員では「あてはまる」と答えている割合にやや差がある。日頃から教師が生徒の話聞き、目を向け、寄り添う意識を高めていくことが必要。また、生徒との信頼関係を築き、相談しやすい環境づくりを工夫していく必要がある。



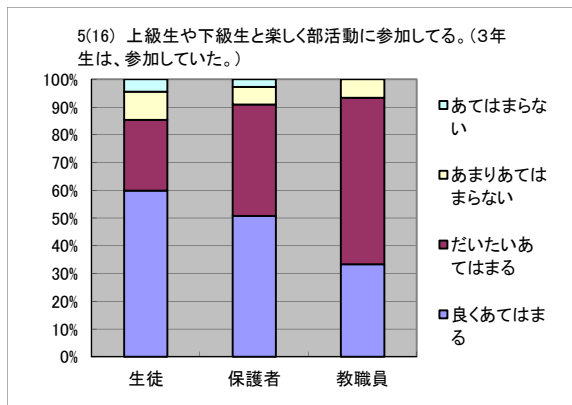
今年度は5月の大河内さんの講演会をはじめ、学校全体で取り組んだ人権学習が生徒の印象に強く残り、その後の人権学習につながる結果となった。

また11月では、土曜授業に玉城ちはるさんなどの講演会を行うことで保護者も講演会に出席でき、家庭でも人権について考える時間ができたことが生徒・保護者の「あてはまる」が9割を超える結果となった。

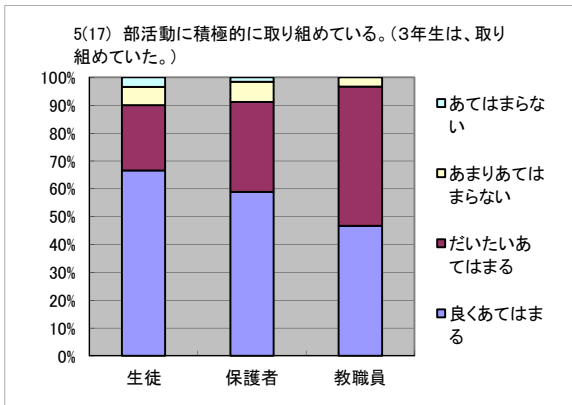


道徳の時間や講演会を通して生徒や保護者に人権学習の意図が伝わっているが、生徒・教職員の約1割は「あてはまらない」と答えていることに注視することが重要である。

道徳の時間などの副読本を使った授業で、生徒への人権意識を高める効果的な教材研究や授業内容、手法を工夫していく必要がある。

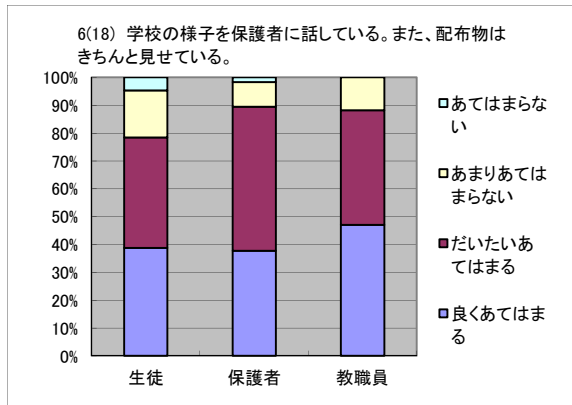


昨年度同様、生徒(保護者)の多くが楽しんで自主的に部活に参加できていることがわかる。教職員の回答は昨年よりも高くなった。一昨年度は「落ち着いて参加できたら良い」、昨年度は「異年齢集団が関わる部活動として規律ある活動」、「部活動に参加できていない生徒への課題」という視点で取り組んだ結果、高い評価が得られなかった。今年度の高い評価は、学校の落ち着きと平行して部活動の取り組みも活性化していると考えられる。



昨年度同様、生徒・保護者は同じで高い割合で、おおむね満足感・達成感を持っている。教職員は一昨年度87%、昨年度93%と上っている。

教職員の部活動に求める内容が達成感や成就感だけでなく、教育という視点で生徒の心の成長にも欠かせないものという意義を大切にしている意識へと変わってきている。課題は、生徒の1割が部活動に積極的に参加できていないことであり、顧問・担任・学年などで連携と保護者対応が必要である。



今年度は保護者と教職員の「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」が9割近く、また生徒は8割近くあり、昨年度以上数値を得ている。

これは、教職員の日常のこまめな生徒指導や学級、学校の様子を伝える学年・学級通信の配付、学校の様子をリアルタイムに掲載している学校ホームページが継続的に配布・掲載されている積み重ねの結果と考えられる。